

北新宿二丁目町会

[新宿区]

● SNS 活用

季節ごとのお祭り等のイベント、防犯パトロール、防災教室など、町会活動を積極的に行っています。

若い世代をはじめとする幅広い住民に関心を持ってもらい、イベントにもっと足を運んでもらうことを目的として、Facebook ページを立ち上げ、情報発信の強化に挑戦しました。まずは、プロボノ支援と同時期に開催した「防災教室」への集客を目標に、町会とプロボノチームが一緒になって投稿する記事の内容を練り上げながら、運用を始めました。また、複数の方が投稿しても一定のクオリティを維持できるよう、手順書を作成しました。

● プロジェクトの流れ

キックオフ

プロボノチームが事前に準備を進めたことで、キックオフミーティング当日に Facebook ページを開設することができました。

イベント訪問と Facebook 案内

チームが『新宿かしわまつり』へ参加。チームで作成した Facebook ページの案内と防災教室のチラシ配布を手伝いました。

Facebook 投稿伴走支援

Facebook 投稿に町会の皆さんが慣れるよう、投稿内容を提案したり投稿の手伝いをしながら、運用を伴走支援しました。

成果提案

Facebook ページの成果として「いいね！」数、リーチ数などを報告。さらに、理想の町会像、防災教室のアイデアなどを提案しました。



● 成果物について

Facebook ページと、Facebook ページの開設を周知するための案内チラシを制作しました。

Facebook ページ公開後から運用を伴走支援し、5週間で19の記事を投稿した結果、60名以上のフォロワーを獲得しました。また、公開後の初投稿として発信した町会長挨拶は、1,200人にリーチすることができました。投稿を閲覧した50%以上が、20~40歳代前半です。成果提案ミーティングでは、Facebook ページの活用実績と成果を振り返り、よりよい活用に向けた戦略提案を行いました。



大森本町北町会

[大田区]

●業務フロー設計

首都直下型地震に備え、地域防災の会議や訓練などを重点課題として取り組んでいます。

災害時に備え、支援が必要な人が町内にどれくらいおり、どのような支援が求められているかを把握するために、情報収集・蓄積に必要な作業のフローを整理しました。また、フローを実行可能なものとするために、重要度が高い、具体的な資料・書式等を作成しました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会の方との初顔合わせを行いました。町会の活動内容を理解するために熱心に耳を傾け、プロボノチームメンバーみな、町会の方の熱意に心打たれました。



外部調査を実施

地域の見守り活動を行っている他団体を訪問し、ヒアリングを実施しました。他地域での取り組みを知り、メンバーの視点が大きく広がりました。

中間報告と方針の確認

これまでの調査結果を報告し、最終成果物の方向性を確認しました。町会からのフィードバックをもとに、成果提案に向けた作業を明確にしました。

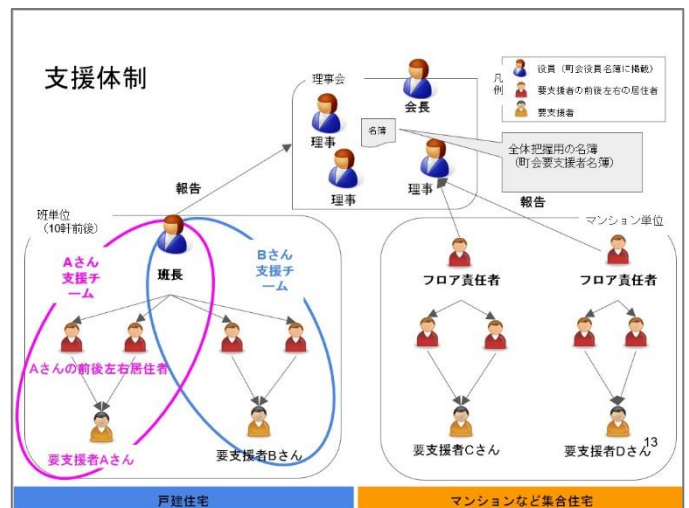
成果提案

災害が起こったとき、支援が必要な方を助けるシステムをどのように作るのか。支援体制と、その体制を整えるために必要な資料・書式等を提案しました。

●成果物について

災害時の備えとして考えられる取り組みは多岐に渡ります。プロボノチームは、まず、現状調査や他団体の事例をもとに、作業の優先度や必要なツールを確認。具体的には、町会内の要支援者名簿、救急医療情報キット、支援チームの編成などを提案しました。

また、これらの活動を、住民に理解してもらい、地域で展開していくために、一般向けの案内文書や要支援者情報記入フォーム、支援チームの編成や要支援者名簿作成に関連する業務のフロー図など、すぐに実行に移していけるような資料・書式等を提供しました。



北千東中自治会

[大田区]

●アンケート活用

防犯カメラやスタンドパイプ、AED の設置や、大学のホールを借りてのコンサートの実施など、安心・安全な地域づくりや顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

今後の自治会活動に向けて検討するための基礎資料とするため、現状の活動について、一般の住民の理解や反応、期待や要望などについてヒアリング調査やアンケート調査を実施し、客観的・定量的な情報収集を行いました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

支援先団体の方に、これまでの自治会の取組みを詳しく伺いました。温かい笑顔で歓迎していただき、プロボノ活動の魅力を実感したスタートとなりました。



アンケートの進め方について打ち合わせ

自治会加入者へのヒアリング調査の内容などをもとに、自治会の方と、今後のアンケートの進め方について、打ち合わせを実施しました。

アンケート作成・調査

自治会の皆さんを対象に、アンケートを作成しました。町会の方の協力もあり、多くの方に回答いただきました。



成果提案



これまで見えてこなかった住民の声がわかり、今後の施策につながりました。

●成果物について

自治会運営関係者や若い世代の加入者にヒアリングを行ったり、自治会主催のイベントに参加するなどして、地域の生の声と体験をもとに、アンケートの素案をまとめました。

この素案をもとにプレアンケートを行い、その後一般住民対象のアンケートを実施しました。町会の皆様の協力もあり、600 名を超える方に回答いただけました。

アンケートの結果住民は町会活動への関心や参加には積極的であるものの、防災グッズの認知度は低いことがわかりました。そこで、スタンドパイプのみを用いた防災訓練を実施するなど次の施策につながりました。

アンケート調査表

記入日: 2018 年 2 月 日

この度、北千東中自治会運営に関するアンケート調査を実施することになりました。皆様のご意見をもち、より暮らしやすい街を作っていきますので、ご協力お願い申し上げます。

質問 1. (1) あなたの所属する班・組をご記入ください。分からない場合は「分からない」にチェックを入れてください。

班 組 分からない

(2) あなたの年齢についてお伺いします。該当の口をチェックを入れてください。

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) あなたの性別についてお伺いします。該当の口をチェックを入れてください。

男性	女性
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

高島平七丁目町会

[板橋区]

●アンケート活用

行事やお祭りなどの町会活動に、町会の中心メンバーは熱心に取り組んでいる一方で、昨今加入率が低下傾向にあります。

ヒアリングやアンケートによる調査を実施することで、現状の町会活動に対する、一般住民のニーズや期待、不満や要望等を掘り起こし、今後の町会活動の基礎資料として、現状を数値で「見える化」することを目指しました。



●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会の窓口担当者と打合せを行い、プロジェクトの方向性と成果物のイメージの意識合わせを行いました。



町会役員会にて調査概要報告



プロボノチームが、町会役員会に出席し、今回の調査活動の趣旨や方法を説明しました。

●成果物について

既存の調査やヒアリングの結果から、ライフスタイル・家族状況・価値観の多様化により「町会には入るもの」というこれまでの常識は成立しないことが仮説として浮かび上がりました。

そのうえで、町会加入者および未加入者 127 名にアンケートを取りました。その結果、「加入のきっかけがない未加入者」や「距離感を持つ加入者」が散見されることがわかりました。

それらの結果をふまえ、「広報活動の多様化」や「意義と役割を限定したり、明確にした協力の呼びかけ」等を提案しました。

アンケート調査を実施

個別ヒアリングの結果に基づいて、住民向けの質問紙を作成。アンケートを実施しました。

成果提案

約 50 ページの調査報告書と、町会役員会での報告用にダイジェスト版を作成し、納品しました。町会加入率を上げるためのヒントが具体的に詰まった資料となりました。

■ アンケート集計後の感想

- 広報でやるとよさそうなこと
 - 広報手段の多様化
 - 行事の告知、行事の楽しい様子を伝える
 - 回覧板の回覧方法、回覧対象の明確化
 - 掲示板の掲載基準明確化と掲示板の増加
- 行事でやるとよさそうなこと
 - 集客力のある行事（全員参加型）での加入呼びかけ
 - 意義と役割を限定、明確にした協力の呼びかけ
- 勧誘活動でやるとよさそうなこと
 - 加入きっかけのない潜在的協力者へのアプローチ
 - 加入手続きのハードルを下げる（はがき・ネット申込等）
 - 町会費支払いのハードルを下げる（カード払い、自動引き落としほか）

みなさんのお話合いのきっかけにいただければ幸いです

小竹町会

[練馬区]

●ウェブサイト

若い世代が中心となって編集している街の情報冊子「こたけぐらし」の発行や、町会会館を活用した文化祭など、活発な活動をしています。

掲示板や回覧板を中心としている広報活動をさらに強化し、小竹町会の活動を発信する基盤となるウェブサイトを構築します。

また、ウェブサイトでは、数年前に建て替えたばかりの町会会館の貸室利用についても発信し、会館の利用率向上につなげることも目指しています。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会の皆さんとプロボノチームの初顔合わせ。ウェブサイト構築にむけ、成果物への期待や、利用可能な文章や画像などの素材を明確にしました。

町会の方へのヒアリング

町会の運営メンバーの皆さんへヒアリングをし、ウェブサイトに掲載したい情報や希望する運営方法等を確認しました。

ホームページ構成内容確認

ウェブサイトの構成内容を確認しました。制作の方向性が固まり、以後は、実際の作り込みに進みます。

成果提案



3月に WEB サイトの完成イメージを合意し、その後4月に WEB サイトが公開されました。



●成果物について

町会の活動を紹介するウェブサイトを、無料のホームページ作成サービスを利用して制作しています。ウェブサイトのコンテンツは、町会の方にヒアリングを重ね、どんなウェブサイトにしたいか、どんな人に何を伝えたいかを丁寧に聞き取り、決定しました。

町会の紹介や、地域のニュースにいつでもアクセスできる、便利なホームページができあがりました。



足立区町会・自治会 連合会

[足立区]

●チラシ制作

足立区は、東京 23 区内で最も町会・自治会数が多く、町会・自治会の活動が活発だと言われていますが、ここ最近では加入率が低下傾向にあります。

そこで、新たに「若者」「女性」「外国人」をターゲットとして、町会・自治会の魅力を訴求するようなチラシ作成に挑戦しました。

チラシの作成に当たっては、ターゲットに該当する町会参加者へのヒアリング調査を実施します。また、これらの人たちが関心を持てるような町会・自治会の新しいあり方についての提案を行います。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

団体の皆さん、プロボノチームで、どんなチラシが効果があるのか、連合会としての目標は何か、チラシ制作にこめる思いを確認しました。

ヒアリングやアンケート調査実施

文化施設に訪れた方や、日本語教室に参加されている足立区在住の外国人の方を対象に、ヒアリングやアンケート調査を実施しました。

チラシの台割検討

チラシの台割を検討するために、町会の皆さんと共に、打ち合わせを行いました。

成果提案



完成したチラシのデザインを町会の方、区役所の方にご覧いただきました。



●成果物について

ヒアリングでは、日本語教室参加の「外国人」の方、文化施設来場の「若者」「女性」の方、また、加入者や町会運営関係者の方など、様々な方にお話を伺いました。

その結果、町会は、外国人の方にも知られてはいるのですが、活動内容や加入方法が知られていないことが分かりました。そこで、手に取ってじっくりと読むことができる、リーフレットスタイルで、手元に置きたくなるような親しみやすいデザインのチラシを作成し、配布方法とともに提案しました。



井の頭一丁目町会

[三鷹市]

●マーケティング基礎調査

みんなのブックカフェ(赤ちゃん和妈妈の会、シニアヨガなど多世代交流の場)、麻雀・囲碁・将棋の会、落語を聞く会などの「交流の場づくり」、防災を考える会を中心とした「災害に強いまちづくり」、「安全安心パトロール」、学童保育の子どもたちの「見守り活動」など、近年、町会活動が活発化しています。

この活動をさらに発展させ、より幅広い住民参加につなげるための広報のあり方を検討するため、住民へのニーズ調査を行いました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

町会とプロボノチームが初顔合わせ。プロボノメンバーは、町会の皆さんに温かく歓迎していただき、期待に応えられるよう頑張ろう！とやる気が湧き上がりました。

活動現場見学

チームが町会活動の1つである「赤ちゃんカフェ」に参加し、実際の活動を体験。現場見学を行いました。

ヒアリング、アンケート調査実施

町会活動に関する住民アンケートを実施。役員の皆さんの配布協力を得て、138件の回答を回収しました。

成果提案

アンケートやヒアリングの調査結果をもとに、町会活動を住民により広く知ってもらうための広報戦略を提案しました。掲示板や回覧板、町会だよりの重要性を再認識する結果となりました。



●成果物について

プロジェクト開始前は、ウェブサイトを活用する必要性が考えられていました。しかし、調査から、ウェブサイトへのニーズは低いことがわかりました。一方で、掲示板の価値を再認識する結果となりました。

そこで、掲示板そのものや掲示するチラシの見直し、回覧板との連動方法などを検討することに。町会の皆さん自身が情報を更新しながら運用できるような、チラシや入会案内のフォーマットを作成しました。さらに、住民と共に運営していくイベントの企画提案も行いました。

3.町会だよりの改善 町会だよりの改善サンプル

実際に作ってみました！

- 最初に町会からのご挨拶を。形式的ではなく、**親しみやすいコメント**が良い。
- タイトルはちょっと興味をひく内容に工夫を。
- 文章も**簡潔**に。
- 町会だよりでイベントを知りたい人が多いので、**情報をわかりやすく整理**。日程など、伝えたいポイントを強調。
- 小さいスペースの記事でも**ポイント**をわかりやすく。
- 最後に**お問合せ先**をわかりやすく。

井の頭一丁目町会だよ!

★一番のポイント★
カラーで、レイアウトを工夫し、**内容にメリハリ**をつけることで、どの世代の方も読みやすい紙面に。

イラストを入れて、**季節感**を出す。

イメージが伝わりやすいよう**バリエーション**溢れる写真を撮影しておくよ!

ヒアリングで全世代が関心の高かった「**防災情報**」。報告やお知らせだけでなく、毎月ちょっとした防災情報をお届けする。役立っただけでなく、「安全安心の町」のイメージづくりとしても。町会だよりをストックしておく人が増える可能性も。

SERVICE GRANT 30

郷地東町連合自治会

[昭島市]

●アンケート活用

担い手不足から、約 20 年間休会状態となっている連合自治会内の「北部自治会」について、住民の中で活動再開が検討されています。自治会の再開についての住民のニーズ・意向調査を実施します。調査では住民の希望を把握するとともに、再開した場合に自治会にどのような事業・活動を望むか、どのような形であれば住民の参加・協力が得られるか、再開後の運営のヒントとなる情報を得ることを目標としました。

●プロジェクトの流れ

キックオフ

自治会の方にお会いして、これまでの経緯について、じっくりお話を伺いました。住民のためになる組織であるために。加入率を上げるために。自治会長の思いがプロボノチームに伝わった一日となりました。

町会の方にヒアリング



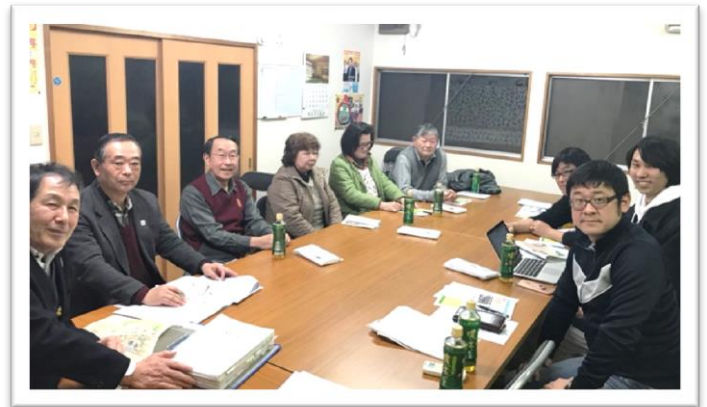
自治会活動に関わる方々へ、ヒアリングを実施しました。

アンケートの内容打ち合わせ

自治会の方々と、アンケートの内容や回答の回収方法、今後のスケジュールについて、打ち合わせを行いました。

成果提案

アンケートの集計結果を発表したのち、全員で、これからの町会活動の在り方を考えるワークショップを行いました。



●成果物について

自治会再開への意向を直接確認するのではなく、まず、町内での暮らしの満足度や自治会のイメージなど、住民のニーズをできるだけ正確に把握するような質問を用意しました。

そのうえで、自治会を再開した場合の状態を提示して再開への意向を確認する、という構成でアンケートにまとめました。

アンケート結果から、自治会機能へのニーズはあるものの、役員負担への懸念が大きいことが分かり、自治会再開に向けて、運営方法の工夫に関する具体的な方策を提案しました。

町での暮らしと「町内会・自治会」について
アンケート回答にご協力ください！

「昭島市・郷地東町連合自治会」が実施しているアンケート調査です。
町民の皆さんがアンケート回答くださった結果を、地域のより良い自治活動に活用させて頂けますか。

ご回答にあたって

- 質問文をよくご確認して「○は1つ」「○はいくつでも」といった答え方にご注意ください。
- ご回答は差し支えない範囲で結構です。答えづらい質問は空欄のままお返してください。
- ご回答が **今後の自治会へのお誘いなどにつながる事は一切ありません**ので、ご安心ください。

書き終わったアンケート票は

- こちらの店やお宅にある回収箱に投函するか、お店の方・ご担当の方にお渡しください。